

## ■＜参考資料＞中小企業診断士第2次試験の出題の趣旨

中小企業診断協会が公表している出題の趣旨です。

### 平成27年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅰ」の出題の趣旨

#### 第1問（配点20点）

創業以来、A社の経営を支えてきたスポーツ用品事業の市場特性について、基本的理解力・分析力を問う問題である。

#### 第2問（配点20点）

従前、社内の一事業部門として運営してきたプラスチック成形事業を、関連会社に移管している理由について、分析力・課題発見力を問う問題である。

#### 第3問（配点20点）

A社グループの売上の60%を占めるまでに成長した事業が、今後A社グループの経営に対してどのような課題を生じさせる可能性があるかについて、分析力・課題発見力を問う問題である。

#### 第4問（配点20点）

A社グループが成果主義型賃金制度を導入しない理由について、分析力を問う問題である。

#### 第5問（配点20点）

プラスチック製造を主力事業としてきたA社が、新規事業としてスポーツ関連のサービス事業をさらに拡大する際に、どのような点に留意すべきかについて、中小企業診断士としての助言能力を問う問題である。

以上

## 平成 27 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅱ」の出題の趣旨

### 第 1 問（配点 40 点）

#### （設問 1）

B 商店街周辺の環境変化に基づき、今後のターゲットを分析する能力、提案する能力を問う問題である。

#### （設問 2）

B 商店街周辺の今後のターゲットの特徴に基づき、誘致すべきサービス業を分析する能力、提案する能力を問う問題である。

#### （設問 3）

B 商店街が誘致するサービス業とのテナントミックスの効果を最大化するために、今後のターゲットの特徴に基づき、飲食店が採るべきマーケティング戦略を分析する能力、提案する能力を問う問題である。

### 第 2 問（配点 20 点）

B 商店街が実施する物産市当日の来街客のニーズを推測し、物産市の内容と連動しながら非食品小売店が採るべきマーケティング戦略を分析する能力、提案する能力を問う問題である。

### 第 3 問（配点 40 点）

#### （設問 1）

B 商店街が低価格志向の総合スーパーと差別化するために、環境変化に基づき、誘致すべき食品小売店とそのマーケティング戦略を分析する能力、提案する能力を問う問題である。

#### （設問 2）

B 商店街代表理事の長期的なビジョンを踏まえつつ、環境変化に基づき、誘致する食品小売店が長期にわたり商店街に定着するための新規イベントとその効果を分析する能力、提案する能力を問う問題である。

以上

## 平成 27 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅲ」の出題の趣旨

### 第 1 問（配点 40 点）

#### （設問 1）

鋳物工場として創業した C 社の事業変遷、事業内容を把握し、自動車部品生産への新規参入の検討に際して考慮すべき C 社の強みを分析する能力を問う問題である。

#### （設問 2）

C 社の事業内容を把握し、自動車部品生産への新規参入によって得られる C 社のメリットを分析する能力を問う問題である。

#### （設問 3）

短納期を要求される自動車部品生産への新規参入の検討を行っている C 社の生産体制に関する課題を把握し、その改善策を提案する能力を問う問題である。

### 第 2 問（配点 20 点）

現在まで行ってきた設備投資によって生じている C 社の生産工程に関する課題を把握し、解決する能力を問う問題である。

### 第 3 問（配点 20 点）

納期遅延の解消を目的とした生産管理の IT 化を計画している C 社の課題を把握し、納期管理の方法を提案する能力を問う問題である。

### 第 4 問（配点 20 点）

C 社の経営環境を把握し、国内生産を維持していくために必要な戦略と強化策について助言する能力を問う問題である。

以上

## 平成 27 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

### 第 1 問（配点 28 点）

#### （設問 1）

D 社と同業他社の財務諸表の数値をもとに、D 社の財務状態の評価目的にかなった財務比率を選択し、計算する能力を問う問題である。

#### （設問 2）

適切な財務比率に基づいて、同業他社と比較した場合の D 社の財務的な特徴を説明する能力を問う問題である。

### 第 2 問（配点 34 点）

#### （設問 1）

損益予測に関する情報を理解し、予測損益計算書を作成する能力を問う問題である。

#### （設問 2）

予測損益計算書をもとに、D 社の将来における損益状況の特徴を理解し、そのような傾向が生じる原因を推定する能力を問う問題である。

#### （設問 3）

予測損益計算書をもとに、与えられた条件に応じて、短期利益計画に有用な CVP 分析を実施する能力を問う問題である。

### 第 3 問（配点 26 点）

#### （設問 1）

各プロジェクトの内容を理解し、全社的損益の状況に関する条件のもとで各プロジェクトの将来におけるキャッシュ・フローを予想する能力を問う問題である。

#### （設問 2）

将来の予想キャッシュ・フローに基づき、正味現在価値によってプロジェクトの採算性を判断する能力を問う問題である。

#### （設問 3）

プロジェクトの流動性評価の指標を理解したうえで、将来の予想キャッシュ・フローに基づき、プロジェクトの流動性を判断する能力を問う問題である。

#### **第 4 問 (配点 12 点)**

##### **(設問 1)**

大口得意先が存在することが、D 社の企業経営に与えるデメリットに関する理解を問う問題である。

##### **(設問 2)**

大口得意先の存在が経営に与えるデメリットを解消するために、特定の製品を製造・販売することによる効果についての理解を問う問題である。

以上